

## 教育学基礎論としての推論主義の視座

### 提題者

伊藤 遼（早稲田大学、オーガナイザー）

上ヶ谷 友佑（広島大学附属福山中・高等学校）

大谷 洋貴（大妻女子大学）

白川 晋太郎（福井大学）

### 特定質問者

杉田 浩崇（広島大学）

教育の現場において生徒や学生が特定の概念をどのように理解しているか、その頭の中を覗き込んで調べるということはもちろんできない。教育の現場にみられるさまざまな事象を体系的に理解し、その上で、教育の具体的な実践方法やカリキュラムを提示するためには、生徒や学生が特定の「概念を理解する」ということそれ自体に対する理論的な説明、あるいは少なくとも、そうしたことに対する一つのモデルが必要となる。

本シンポジウムは、この意味で教育学の「基礎」となる、概念理解のモデルとして「推論主義」の立場を採ることで、どのような帰結が教育学において得られるのか、そしてまた、推論主義をそのように位置付けることで、教育学の知見が推論主義にどのような発展の可能性をもたらすのかを探ることを目標とする。推論主義とは、周知の通り、ロバート・ブランダムをはじめとする幾人かの哲学者によって提案されている、語の意味をわれわれの「理由を与え求める」言語使用の実践においてもちいられる諸々の推論によって定まるものとして理解する試みである。本シンポジウムでは、生徒や学生が特定の概念を理解するそのあり方を、彼らが当の概念に対応する語をもちいて行う推論という観点から理解することで、どのように教育の現場における諸事象を理解することができるようになるのか、そしてまた、どのような帰結が授業方法論に関して得られるのか、考察する。そしてまた、同時に、教科教育論の知見を踏まえて、推論主義が提示する概念理解モデルの問題点やその解決法を探る。

本シンポジウムでは、まず、数学教育の現場において概念が理解されるあり方を推論主義の視座から説明する道筋を、いわゆる「規則のパラドクス」とそれに対する推論主義の立場からの応答の一つを数学教育の実情に即して整理することを通じて、提示する（伊藤）。さらに、推論主義の観点から教育の現場を理解するさらなる道筋を提示した上で、そのことが授業方法論や教育倫理に持つ帰結と推論主義という考えに持つ帰結を論じる（上ヶ谷）。また、統計教育を題材に、現状みられるある種の「相対主義」の問題に対して、推論主義の観点から提示され得る解決策とその射程を論じる（大谷）。加えて、推論主義の〈「理由の空間」における議論実践モデル〉と〈規範に関する想起説〉の観点から、道徳教育論の中心的な概念である「議論」と「規範」を基礎から捉え直す（白川）。